

## 江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0124 NO81

校長 伊波喜一

天と地の 境あいまい ぼたん雪 曇天の空 地とつながりて

22日、都心にも雪が降った。午前9時過ぎから降り始めた雪が、午後には本降りとなった。翌23日まで降り続いた雪は、都心では積雪10cmと報道していたが、実際には20cm以上積もった。都下の多摩地域では40cmも積もった。大雪に違いない。交通のダイヤも乱れ、駅のホームは遅延の電車を待つ人で溢れた。 翌23日、校庭もその周りも雪に覆われていた。地域の方が早朝から、道路の雪かきをしていた。自校も職員のボランティアで、子ども達が登校する時間までには、何とか校舎までの通り道を作ることが出来た(謝々)。校庭は一面、ぼたんのように柔らかい雪で覆われている。厚みも30cmほどあり、雪遊びにはまたとない機会である。1校時は全校で雪遊びをした。手袋も靴下もびしょ濡れになったが、良き思い出となったことだろう。 子ども達は遊びの天才である。何でも遊びの材料にしてしまう。それだけ夢中になれるということは、素敵な才能である。私自身、いつもみずみずしい心を持ち、子どもと共にものに感動する心を忘れてはならない、そう自戒している。